

登山愛好家の多い三条で、読図講習会を開く必要性は前々から感じていました。村越真さんの呼びかけが開催の決め手となり、実現に至りました。皆さんの街でもぜひ開催してください。

開催に至るまで

三条市内に登山愛好家が多いことは、例えば大きな山岳団体があるとか、地元新聞社主催の市民登山イベントがあるなどということを知っており、三条オリエンテリングクラブでも5年ほど前から読図講習会の開催の必要性を感じていました。

昨年秋に村越真さんより読図講習会開催の呼びかけがあったことに加え、三条市が「まちづくりサポート交付金」という、市民団体のあらゆる公益活動に助成金を交付する事業を行っており、財政面での不安が解消されたことから実現に至りました。

午前 講義

午前の3時間は室内での講義です。資料は村越真さんから提供していただいたものを使いましたが、遭難事故の最新の統計データや県内での事例を警察庁や新潟県警のホームページから得て修正しました。

真さんの資料には「尾根線、谷線を引かせる」とか「写真を撮ったのは地図上のどこかを考えさせる」といった演習課題があり、これが受講者の理解を深めるものとなっています。課題をやってもらったら、助手とともに受講者1人1人を廻ってできているかどうかを確認しました。



講義を行う藤島

午後 実習

午後は屋外での実習です。受講者を7人ずつ3つのグループにわけ、整置の説明を行いました。地図の行きたい方向を前にして持ち、コンパスの北と地図の北の向きが同じになるように体を回す…。このような説明で実演し、受講者が同じようにできているかどうかを1人ずつ見て回りました。

2つの整置

この体を回す方法は「1-2-3」ということもできますが、これらは体を回すか地図を回すか、あるいは現地を地図に対応させるか、地図を現地に対応させるかという違いであり、いずれの動作においても最終的には地図とコンパスの北を同じ向きにすることになりますから、いわゆる「1-2-3」も「整置」と説明することにしています。

すなわち「整置には、地図を回す方法と体を回す方法の2通りがある」という言い方です。今回の講習会でこれに気付き、以降の講習会では整置を次のように2通りの方法があると説明しています。

- 1) 地図を回すパターン...登山においては、登山口に立った時などに使う。登山口の方向を向き、コンパスと地図を取り出し、コンパスの北と地図の北が同じ向きになるように地図を回す。
- 2) 体を回すパターン...登山においては、登山道の分岐点などで使う。地図を、行きたい方を前にして持ち、コンパスを取り出し正しく持つ。コンパスの北と地図の北が同じ向きになるように体をまわす。



整置の指導をする藤島

コンパスの持ち方については、「手首をひねらず、体の正面で傾けないで持つように」と最初に念入りに注意をしました。

整置の説明の後は、地図に記されたルートを歩きます。コースは「交差点に来たら左折する」を4回繰り返して会場周辺を1周するだけの簡単なものです。簡単ですが、交差点での所作の説明が重要です。

すなわち、地図を回さずに整置の状態を保持したまま、体を行きたい方向(=左)へ向ける...ということです。慣れない方は体と一緒に地図も回してしまいます。これも何度も繰り返して指導しました。体と一緒に地図も回してしまう受講者に対しては、地図と地図を持つ手を指導者が固定して、体だけ回させるようにすると理解されやすくなるようです。



地図を見ながら進む受講者の皆さん

ミニオリエンテリング

整置の実習の後はミニオリエンテリングを行いました。ここでの要点は、地図上での現在位置を把握することと、地図と現地の違いを確認することです。

筆者は講習会の前日コースの下見を行ったのですが、市街地であっても地図に書いてある道が実際にはなかったり、あるいは実際にはあるのに地図にはなかったりするケースがあることに驚きました。ミニオリエンテリングの後の解説の時には、受講者の皆さんから地図と現地の違っていた所を指摘してもらい、このことは市街地でも山地でも同じであるということを知ってもらいました。

今後の展開

4月20日には地元高校山岳部顧問の方からの紹介で、新潟市のスポーツ用品店で読図講習会を行い、また4月29日には山に入った実習を中級編として行いました。引き続き山岳遭難事故を減らすという理念を持って、継続して参ります。皆さんの街でも是非開催してください。

(藤島由宇)